

新美南吉『ごん狐』

ごんぎつね

情報マトリクス

AIが整理した情報を手がかりに、
自分で見つけ、組み立て、言葉にするワークシート

見つける

組み立てる

言葉にする



研究助手 ペガちゃん

なまえ
あなたの名前・メモ

読む場所は、ページ番号ではなく「始まりの言葉」と「終わりの言葉」で案内。

青空文庫Web版をスマホで読みながら使えます。

読め、未来を。

AMP
SINCE 2026
エーマガパブリッシング

エーマガパブリッシング

創る未来。

はじめに

このワークシートの使い方

全部を一度に読まなくても大丈夫。

各シートの「読むところ」だけを読み、事実と考えを一場面ずつ整理します。

1 | 読むところを探す

青空文庫Web版を開き、シートにある「始まりの言葉」をブラウザのページ内検索で探します。「終わりの言葉」までが、その場面の範囲です。



2 | 情報を分ける

観察カードと本文を見比べ、ミニチェックで「事実」「判断」「不明」を分けます。AIの整理が正しいか、自分でも確かめます。



3 | 研究ノートに書く

本文で見つけたことを出発点に、矢印・図・言葉で情報を組み立てます。最後に、自分の考えと根拠を書きます。



三つの言葉を覚えよう

事実（じじつ 分かったこと）

本文に書かれていて、たしかめられること。

判断（はんだん その人が考えたこと）

見聞きした情報から、ごん・兵十・加助などが考えたこと。

不明（ふめい まだ決められないこと）

本文だけでは分からないこと。想像で勝手にうめない。

大人の方へ

正解を早く教えるより、「それは本文に書いてある？」「だれがそう考えたの？」と問い返してください。空欄が残っても構いません。分からないことを分からないまま区別できることも、この教材の大切な成果です。

合言葉

AIは整理する。考えるのは、あなた。

文学作品を、情報科学的な見方でひもとくワークシート

全16場面の現在地

1 | 今ここ

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

読むところ

青空文庫Web版・第一章 | 「これは、私が小さいときに」～「いろんなことをしました」

場面の概要

語り手が茂平から聞いた昔話として、ごんの住まいと日ごろのいたずらがしろうかいされます。

AIが整理した観察カード

本文に書かれたことだけ。考えるための材料です。



話の伝わり方	語り手の『私』は、小さいときに村の茂平おじいさんから、この話を聞いた。
ごん	一人ぼっちの小狐。森の穴に住み、昼も夜も村へ出て、いろいろないたずらをした。
村の人たち	畑の芋、菜種がら、とんがらしなどに被害があった。だれがごんを見たかは書かれていない。
本文から不明	ごんが一人ぼっちの理由／いたずらをする理由／そのときの気持ち／村人が犯人を知っていたか。

ミニチェック | 事実・判断・不明を分けよう

1.

ごんは、森の中の穴に住んでいた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明
2.

ごんは、さびしいからいたずらをした。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明
3.

ごんは、村で知られたいたずら者だった。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

ヒント：本文の言葉そのものと、読んだ人がつけた呼び名や理由を分けてみよう。

あなたの研究ノート

見つける > 組み立てる > 言葉にする

1 | 本文で見つけた事実

ごんの住まいや行動を、本文から見つけて書こう。

2 | だれが何を知っている？

『私・茂平・ごん・村の人』を線で結び、情報の伝わり方を整理しよう。

3 | わたしの考え＋その根拠

ごんについて、まだ分からないことは何？ そう考えた本文の言葉も書こう。

AIは整理する。考えるのは、あなた。

全16場面の現在地

12345678910111213141516

2 | 今ここ

読むところ

青空文庫Web版・第一章 | 「或秋のことでした」～「大きな黒子みたいにへばりついていました」

場面の概要

雨上がり、ごんは川で兵十を見つけ、草の深い所から魚をとるようすを見ます。

AIが整理した観察カード

本文に書かれたことだけ。ここは答えではなく、考える材料です。



ごん

草の深い所へ入り、じっとのぞく。川の中の人を兵十だと判断する。

兵十

川の中で、はりきり網をゆすぶり、魚をとる。

情報の差

ごんは兵十を見ている。兵十がごんに気づいたとは書かれていない。

本文から不明

ごんの気持ち／兵十が魚をとる理由／兵十が本当にごんを知らなかったか。

ミニチェック | 事実・判断・不明を分けよう

1. ごんは、兵十に見つからないように草の深い所へ入った。

☐ 事実☐ 判断☐ 不明

2. 川の中にいた人は、兵十だった。

☐ 事実☐ 判断☐ 不明

3. 兵十は、病気の母のために魚をとっていた。

☐ 事実☐ 判断☐ 不明

ヒント：『だれが見た事実か』『だれの判断か』を意識すると、情報の差が見えます。

あなたの研究ノート

見つける > 組み立てる > 言葉にする

1 | 本文で見つけた事実

気になった言葉や行動を、本文から写そう。

2 | だれが何を知っている？

ごんと兵十の『知っている／知らない』を矢印や図で整理しよう。

3 | わたしの考え＋その根拠

この場面で一番大きな情報の差は何？ そう考えた理由も書こう。

AIは整理する。考えるのは、あなた。

全16場面の現在地

○

○

● 3 | 今ここ

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

読むところ

青空文庫Web版・第一章 | 「しばらくすると、兵十は」～「川上の方へかけていきました」

場面の概要

兵十は、はりきり網でとったうなぎやきすを、びくの中へ入れます。その後、びくを土手に置き、川上へ走っていきます。

AIが整理した観察カード

本文に書かれたことだけ。考えるための材料です。



ごん	草の中から、兵十が魚をとるようすを見ている。
兵十	うなぎやきすをびくへ入れ、びくを土手に置いて川上へ走る。
情報の差	ごんは兵十の行動を見ている。兵十がごんに気づいたとは書かれていない。
本文から不明	兵十が何をさがしに行ったか／魚をとる理由／いつ戻るつもりだったか。

ミニチェック | 事実・判断・不明を分けよう

1.

兵十は、うなぎやきすをびくに入れた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明
2.

兵十は、道具を取りに川上へ行った。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明
3.

ごんは、兵十がいなくなるのを見ていた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

ヒント：本文に書かれたことと、登場人物が考えたことを分けよう。

あなたの研究ノート

1 | 本文で見つけた事実

兵十がしたことを、起きた順に書こう。

2 | だれが何を知っている？

ごんと兵十が見たこと・見ていないことを図にしよう。

3 | わたしの考え＋その根拠

兵十が走っていった理由は、本文だけで決められる？ 根拠も書こう。

全16場面の現在地



ごんが魚を逃がす結果を考えたか／兵十が戻る時こく／兵十が魚を何に使うか。



ヒント：本文に書かれたことと、登場人物が考えたことを分けよう。

AIは整理する。考えるのは、あなた。

全16場面の現在地

○

○

○

○

●

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

読むところ

青空文庫Web版・第一章 | 「一ばんしまいに、太いうなぎを」～「草の葉の上にのせておきました」

場面の概要

ごんが最後のうなぎを口にくわえると、うなぎは首にまきつきます。戻った兵十にどなられ、ごんはうなぎをつけたまま逃げます。

AIが整理した観察カード

本文に書かれたことだけ。考えるための材料です。



ごん	うなぎを口にくわえる。兵十の声にびっくりし、うなぎを首につけたまま逃げる。
兵十	ごんを見つけて「ぬすと狐」とどなる。追いかけては来ない。
情報の差	兵十は、ごんがうなぎを持って逃げるところを見る。ごんは、追って来ないことを確かめる。
本文から不明	兵十が魚を逃がした場面まで見たか／兵十が追わなかった理由／二人の気持ちの全て。

ミニチェック | 事実・判断・不明を分けよう

1.

兵十は、ごんを「ぬすと狐」とよんだ。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明
2.

ごんは、うなぎをぬすむために計画していた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明
3.

兵十は、ごんを追いかけてなかった。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

ヒント：本文に書かれたことと、登場人物が考えたことを分けよう。

あなたの研究ノート

1 | 本文で見つけた事実

ごん・うなぎ・兵十の動きを順に書こう。

2 | だれが何を知っている？

だれが、どの場面を見たか。線や矢印で整理しよう。

3 | わたしの考え＋その根拠

兵十が知ったことと、まだ知らないことは何？ 根拠も書こう。

AIは整理する。考えるのは、あなた。

全16場面の現在地

○1

○2

○3

○4

○5

●6 | 今ここ

○7

○8

○9

○10

○11

○12

○13

○14

○15

○16

読むところ

青空文庫Web版・第二章 | 「十日ほどたって」～「兵十の家のだれが死んだんだろう」

場面の概要

十日ほど後、ごんは村の人たちの特別な身じたくを見ます。兵十の家に大勢が集まっているのを見て、「葬式だ」と考えます。

AIが整理した観察カード

本文に書かれたことだけ。考えるための材料です。



ごん

村の人の身じたくや兵十の家のようなすを見て、何があるのかを考える。

村の人たち

身じたくをしたり、兵十の家に集まって料理をしたりしている。

ごんの判断

祭かもしれないと考えた後、目の前のようすから「葬式だ」と判断する。

この時点で不明

だれが死んだのか／村の人が何を知っているか／兵十がどこにいるか。

ミニチェック | 事実・判断・不明を分けよう

1.

ごんは、はじめから葬式だと知っていた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

2.

ごんは、祭ならあるはずの物や音考えた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

3.

兵十の家に大勢の人が集まっていた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

ヒント：本文に書かれたことと、登場人物が考えたことを分けよう。

あなたの研究ノート

1 | 本文で見つけた事実

ごんが見たもの・聞こえなかったものを書こう。

2 | だれが何を知っている？

「祭かも」から「葬式だ」まで、考えの変化を図にしよう。

3 | わたしの考え＋その根拠

ごんは何を根拠に葬式だと判断した？ まだ分からないことも書こう。

AIは整理する。考えるのは、あなた。

全16場面の現在地

○1

○2

○3

○4

○5

○6

●7 | 今ここ

○8

○9

○10

○11

○12

○13

○14

○15

○16

読むところ

青空文庫Web版・第二章 | 「お午がすぎると」～「ごんはそう思いながら、頭をひっこめました」

場面の概要

墓地で葬列を見たごんは、位牌を持つ兵十のようすから、死んだのは兵十のおっ母だと考えます。

AIが整理した観察カード

本文に書かれたことだけ。考えるための材料です。



ごん

六地藏のかけにかくれ、葬列と兵十のようすを見る。

兵十

白いかみしもを着て位牌を持ち、葬列の中を歩いている。

ごんの判断

兵十が位牌を持つすがたを見て、死んだのは兵十のおっ母だと考える。

本文から不明

兵十がごんに気づいたか／兵十の心の中／おっ母が死んだ理由。

ミニチェック | 事実・判断・不明を分けよう

1.

ごんは、六地藏のかけから葬列を見た。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

2.

本文には、兵十のおっ母の死因が書かれている。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

3.

ごんは、兵十のようすを見て死んだ人考えた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

ヒント：本文に書かれたことと、登場人物が考えたことを分けよう。

あなたの研究ノート

1 | 本文で見つけた事実

ごんが見たものと聞いたものを書こう。

2 | だれが何を知っている？

ごんが「兵十のおっ母だ」と考えるまでを図にしよう。

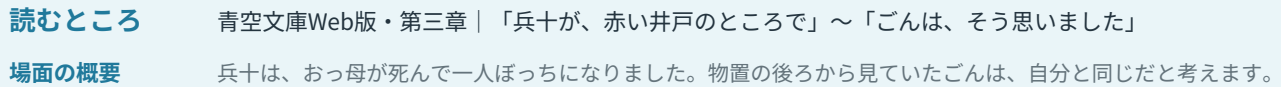
3 | わたしの考え＋その根拠

ごんの判断には、どんな根拠がある？ 本文からまだ分からないことも書こう。

その晩、ごんは、兵十がうなぎをとった理由と、おっ母が死ぬまでのことを想像し、自分のいたづらを後悔します。

おっ母が本当にうなぎを食べたがったか／死因／兵十が魚をとった本当の理由。

全16場面の現在地



ごん	物置の後ろから、麦をとぐ兵十を見ている。
兵十	おっ母が死に、一人ぼっちになっている。ごんには気づいていない。
ごんの判断	兵十と自分は、どちらも一人ぼっちだと重ね合わせる。
本文から不明	兵十がごんと同じ気持ちか／ごんが何をしようと決めたか／兵十がごんをどう思っているか。

ヒント：本文に書かれたことと、登場人物が考えたことを分けよう。

AIは整理する。考えるのは、あなた。

全16場面の現在地



読むところ

青空文庫Web版・第三章 | 「ごんは物置のそばをはなれて」～「まず一つ、いいことをしました」

場面の概要

ごんはいわし売りのかごからいわしを取り、兵十の家へ投げこみます。そして、うなぎのつぐないに、いいことをしたと考えます。

AIが整理した観察カード

本文に書かれたことだけ。考えるための材料です。



ごん	いわし売りのすきを見て、いわしを取り、兵十の家へ投げこむ。
兵十	井戸で麦をといでいて、だれがいわしを入れたか知らない。
ごんの判断	いわしを届けたことを、うなぎのつぐないになる「いいこと」だと考える。
情報の差	ごんは自分の目的を知っている。兵十といわし売りは、ごんの行動や目的を知らない。

ミニチェック | 事実・判断・不明を分けよう

1. ごんは、いわし売りからいわしを買った。

☐ 事実 ☐ 判断 ☐ 不明

2. 兵十は、ごんがいわしを入れるところを見た。

☐ 事実 ☐ 判断 ☐ 不明

3. ごんは、自分がいいことをしたと考えた。

☐ 事実 ☐ 判断 ☐ 不明

ヒント：本文に書かれたことと、登場人物が考えたことを分けよう。

あなたの研究ノート

1 | 本文で見つけた事実

ごんがしたことを、起きた順に書こう。

2 | だれが何を知っている？

ごん・兵十・いわし売りを知ることを図にしよう。

3 | わたしの考え＋その根拠

ごんは「いいこと」をしたと言える？ 行動と目的を分けて考えよう。

AIは整理する。考えるのは、あなた。

全16場面の現在地

○1

○2

○3

○4

○5

○6

○7

○8

○9

○10

●11 | 今ここ

○12

○13

○14

○15

○16

読むところ

青空文庫Web版・第三章 | 「つぎの日には、ごんは山で栗を」～「その入口に、栗をおいてかえりました」

場面の概要

ごんは兵十のほおのきずを見て、いわしのせいで兵十がひどい目にあったと知ります。そこで、物置の入口に栗を置きます。

AIが整理した観察カード

本文に書かれたことだけ。考えるための材料です。



ごん	兵十のひとりごとを聞き、いわしを届けた結果を知る。栗を物置の入口に置く。
兵十	いわしをぬすんだと思われ、いわし屋にひどい目にあったとひとりごとを言う。
情報の変化	ごんは、よいと思った行動が兵十を苦しめたと知り、「しまった」と考える。
本文から不明	兵十がごんに気づいたか／いわし屋との出来事のくわしいようす／栗を見つけた時の兵十の考え。

ミニチェック | 事実・判断・不明を分けよう

1. 兵十は、いわしをぬすんだと思われた。

☐ じじつ
事実

☐ はんだん
判断

☐ ふめい
不明
2. ごんは、兵十のきずを見ただけで全てを知った。

☐ じじつ
事実

☐ はんだん
判断

☐ ふめい
不明
3. ごんは、物置の入口に栗を置いた。

☐ じじつ
事実

☐ はんだん
判断

☐ ふめい
不明

ヒント：本文に書かれたことと、登場人物が考えたことを分けよう。

あなたの研究ノート

1 | 本文で見つけた事実

兵十のひとりごとから分かることを書こう。

2 | だれが何を知っている？

いわし 兵十のきず ごんの判断 栗を図にしよう。

3 | わたしの考え＋その根拠

ごんはなぜ、次はいわしでなく栗にしたと思う？ 根拠といっしょに書こう。

AIは整理する。考えるのは、あなた。

全16場面の現在地

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

●

○

○

○

○

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

読むところ

青空文庫Web版・第三章 | 「つぎの日も、そのつぎの日も」～「まつたけも二、三ぼんもっていきました」

場面の概要

ごんは、次の日もその次の日も栗を兵十の家へ持っていきます。さらに、まつたけも持っていきます。

AIが整理した観察カード

本文に書かれたことだけ。考えるための材料です。

ごん

何日も栗をひろって兵十の家へ持っていき、まつたけも二、三本届ける。

兵十

この場面では、届け物を受け取るようすや考えは書かれていない。

くり返された行動

一度だけでなく、何日も届け物を続けたことが本文から分かる。

本文から不明

ごんがいつまで続けるつもりか／兵十がだれからの届け物だと思ったか／ごんの気持ちの全て。

ミニチェック | 事実・判断・不明を分けよう

1. ごんは、何日も栗を届けた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

2. 兵十は、この時点でごんからの栗だと知っていた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

3. ごんは、栗のほかにまつたけも届けた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

ヒント：本文に書かれたことと、登場人物が考えたことを分けよう。

あなたの研究ノート

1 | 本文で見つけた事実

何を、何回くらい届けたか分かる言葉を書こう。

2 | だれが何を知っている？

日ごとの行動と、だれが知っているかを図にしよう。

3 | わたしの考え＋その根拠

ごんが届け物を続けたことから何が考えられる？ 本文の言葉を根拠にしよう。

AIは整理する。考えるのは、あなた。

全16場面の現在地

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

●

○

○

○

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

読むところ

青空文庫Web版・第四章 | 「月のいい晩でした」～「お経を読む声がきこえて来ました」

場面の概要

月夜に、兵十は加助へ、だれかが毎日栗やまつたけをくれると話します。後ろをつけるごんは、その会話を聞きます。

AIが整理した観察カード

本文に書かれたことだけ。考えるための材料です。



ごん	道にかくれた後、兵十と加助の後をつけ、二人の話を聞く。
兵十	届け物があることは知っているが、だれが置くのかは知らない。加助へその話をする。
加助	兵十から、毎日届け物があると初めて聞く。ごんが後ろにいることには気づかない。
情報の差	ごんだけが届け主を知っている。兵十と加助は、届け物の事実だけを知っている。

ミニチェック | 事実・判断・不明を分けよう

1.

兵十は、毎日届け物があると加助に話した。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明
2.

加助は、ごんが届け主だと見ぬいた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明
3.

ごんは、二人の話を聞くため後をつけた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

ヒント：本文に書かれたことと、登場人物が考えたことを分けよう。

あなたの研究ノート

1 | 本文で見つけた事実

兵十が知ること・知らないことを書こう。

2 | だれが何を知っている？

ごん・兵十・加助の情報を線や矢印で整理しよう。

3 | わたしの考え＋その根拠

この場面で一番多くの情報を持つのはだれ？ 根拠も書こう。

AIは整理する。考えるのは、あなた。

全16場面の現在地

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

12345678910111213141516

読むところ

青空文庫Web版・第五章 | 「ごんは、おねんぶつがすむまで」～「まいにち神さまにお礼を言うがいいよ」

場面の概要

念仏の帰り道、加助は、届け物は神さまのしわざだと兵十へ話します。兵十は、その考えを受け入れます。

AIが整理した観察カード

本文に書かれたことだけ。考えるための材料です。

ごん

兵十と加助の話を聞こうとして、二人の後をついていく。

加助

届け主は人間ではなく、兵十をあわれんだ神さまだと判断する。

兵十

加助の説明を聞き、「そうかなあ」とたずねた後、「うん」と答える。

本文から分かること

届け主が神さまというのは加助の判断であり、事実ごんが届けたこと。

ミニチェック | 事実・判断・不明を分けよう

1.

加助は、届け物を神さまのしわざだと考えた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

2.

兵十は、ごんが後をつけていると知っていた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

3.

神さまが届けたことは、本文上の事実だ。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

ヒント：本文に書かれたことと、登場人物が考えたことを分けよう。

あなたの研究ノート

1 | 本文で見つけた事実

加助が言ったことと、兵十の返事を書こう。

2 | だれが何を知っている？

事実 加助の判断 兵十の反応を図にしよう。

3 | わたしの考え＋その根拠

加助はなぜ神さまだと考えた？ その考えで抜けた情報は何？

全16場面の現在地



本文から不明 ごんが礼拝そのものを求めていたか／この後どうするつもりか／兵十がごんをどう見ているか。

ヒント：本文に書かれたことと、登場人物が考えたことを分けよう。

AIは整理する。考えるのは、あなた。

全16場面の現在地

12345678910111213141516

16 | 今ここ

読むところ

青空文庫Web版・第六章 | 「そのあくる日もごんは、栗をもって」～「青い煙が、まだ筒口から細く出ていました」

場面の概要

栗を持って兵十の家へ入ったごんは、いたずらに來たと思われて撃たれます。土間の栗を見た兵十は、届け主がごんだったと知ります。

AIが整理した観察カード

本文に書かれたことだけ。考えるための材料です。



ごん

栗を持って家へ入り、撃たれてたおれる。兵十の問いに、目を閉じたままうなづく。

兵十

ごんを以前うなぎをぬすんだ狐だと考え、撃つ。その後、土間の栗を見て真相に気づく。

情報の変化

兵十は「いたずらをしに來た」という判断から、「栗をくれたのはごん」へ考えを変える。

本文から不明

ごんがその後どうなったか／兵十がどんな気持ちになったか／二人が分かり合えたと言えるか。

ミニチェック | 事実・判断・不明を分けよう

1.

兵十は、ごんがまたいたずらに來たと考えた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明
2.

兵十は、撃つ前に土間の栗を見つけた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明
3.

ごんは、兵十の問いにうなづいた。

☐ 事実

☐ 判断

☐ 不明

ヒント：本文に書かれたことと、登場人物が考えたことを分けよう。

あなたの研究ノート

1 | 本文で見つけた事実

撃つ前と後で、兵十が見たものを書こう。

2 | だれが何を知っている？

兵十の判断が変わる道すじを図にしよう。

3 | わたしの考え＋その根拠

真相は伝わったと言える？ 分かったことと、間に合わなかったことを書こう。

集めた情報をつなぎ、ごんと兵十の「伝わったこと・伝わらなかったこと」を作品全体で考えよう。

物語の情報の流れ

いたずら

→

後悔

→

つぐない

→

誤解

→

思い込み

→

真相

1 | ごんが知っていたこと

場面をまたいで増えた情報や、最後まで知らなかったことを整理しよう。

2 | 兵十が知っていたこと

兵十の判断が変わった場面と、そのきっかけになった情報を書こう。

3 | 伝わらなかった情報

だれからだれへ、何が伝わらなかった？ 矢印や図で表そう。

4 | 作品から考えたこと

「真相が伝わること」と「分かり合うこと」は同じ？ 自分の考えと根拠を書こう。

読書感想文への種

わたしが最も気になったのは

なぜなら

の場面です。

原作・参照本文

作品	新美南吉「ごん狐」
参照	青空文庫 新字新仮名版（図書カード No.628）
底本	「新美南吉童話集」岩波文庫、岩波書店
入力	林 裕司
校正	浜野 智
公開・修正	1998年10月23日公開／2012年5月8日修正
Web版	https://www.aozora.gr.jp/cards/000121/files/628_14895.html
各シートの引用範囲表示は、上記Web版の章番号と冒頭・末尾の短い言葉を基準にしています。閲覧端末によって変わるページ番号には依存しません。	

奥付

AI文学研究室

『ごんぎつね』 情報マトリクス

企画・編集	エーマガパブリッシング
発行	非月刊エーアイマガジン編集部／檜葉なおよしn
制作支援	ChatGPT / Codex
研究助手	ペガちゃん
初版	2026年8月
版	v3.6
問い合わせ	contact@amaga-pub.com https://amaga-pub.com/



制作方針

- 1
- 本文に書かれた事実と、登場人物の判断・推測を分ける。
- 2
- 本文から決められないことを、AIが勝手に補完しない。
- 3
- AIの整理を答えにせず、子ども自身の観察・図式化・言語化を主役にする。
- 4
- 青空文庫Web版をスマホで参照できるよう、読む範囲を言葉で示す。



AIと共に、創る未来。

読め、未来を。